



子どもたちの安全を願うボランティアの方へ

エプロン通信員 新里 律子

通学途中の子どもたちの声があちらこちらから聞こえてくる朝、黄色い旗を持って、いつもの信号のない横断歩道に立つのは、宮城さん、比嘉さん、大城さん。平成10年頃から子どもたちの安全のためにボランティアを始めたといいます。

「地域の子どもたちは地域の皆で支えない」という小学校の校長の言葉に後押しされ、雨の日にはカッパに傘を差して、太陽きらぎらの真夏には帽子を被り、排気ガスにも負けずそこに立っています。ときには8時の登校時間をとくに過ぎている時間に、とぼとぼと歩いている黄色いランドセルカバの1年生にそっと寄り添いながら学校に向かって歩いています。その子の心細さを優しく包んでくれているようであり、こちらの心まで温かくなります。

また、朝の通勤途中の車中から、宮城さんたちへ「おはよう」と「ありがとう」の気持ちで軽く会釈をすると、顔も知らない私にも必ず笑顔で会釈を返してくださり、とてもすがすがしく一日をスタートさせることができます。

ボランティアの皆さんを気に留めるようになったのは、ちょうどわが子が小学

校に通うようになった頃であったかと思えます。その当時、奈良県などでは通学路で小学生が行方不明になったり、子どもたちが巻き込まれる事件が後を絶たず、仕事をしながらもとても不安になったことがあります。

通学路に地域のボランティアの方々がいってくださるようになり、そのおかげか子どもたちからは「変な人がいなくなつた」などの声が聞かれるようになりました。宮城さんたちは、「月々金曜日まで毎日だから大変だけど、子どもたちから手紙や年賀状をもらったりするのよ」と笑顔で話されていました。

人と人の結びつきが弱くなっているという社会ですが、毎日、地域の子どもたちのために頑張っている宮城さん、比嘉さん、大城さん、本当にありがとうございます。市内各地で行動されている皆さんは私たちが育て世代の心強い味方です。これからもお体を大切にしてください。見守り続けて下さい。



茶

くわーゆんだく

80

水を大切に

伊佐交叉点から普天間にかけての県道31号線沿い、キャンプ瑞慶覧側に「喜友名泉」の看板を見ることが出来ます。そこに、せせらぎのようなポケットパークがあります。これはキャンプ瑞慶覧内にある国指定文化財「喜友名泉」からの湧き水を利用しています。

泉は、県道からフェンスと木々に囲まれた急坂道を120mほど降りた場所にあり、大きな石灰岩をあい方積、布積みを基調にした造りです。泉はカーグワー（イナグガー）とウフガー（イキガガー）の二つあり、飲み水はカーグワーから、家畜の水浴びはウフガーでそれぞれ役割がありました。また、正月の「若水」やお産の時の「産水」、亡くなった時の「死水」はウフガーから取っていました。

喜友名泉は喜友名部落の七つある湧泉の一つで、喜友名から伊佐一帯の水田地帯を潤していました。水量豊富な泉として有名で、1904（明治37）年の7カ月も続いたとされる大干ばつの際にも水をたたえて、喜友名はもとより遠くは宇宜野湾からも水を汲みに来たといわれています。

しかし、場所が急坂の下にあったため、水汲みの面倒くささから喜友名

の人の嫁には行きたくないとされ、逆に喜友名の嫁は働き者と言われていました。

戦後、泉は琉球政府の資金と寄附金で水道管をしき、喜友名一帯の水源となりました。上水道の普及した現在もポンプアップし、簡易水道として畑の散水などに利用されています。冒頭のせせらぎもこの水をひいたものです。

喜友名泉は昔から喜友名部落の水源として、また、生活の一部として各種行事、儀礼にはなくてはならないものでした。簡易水道の落成した時は、その喜びが民謡にして歌われたほどで、大事にしていたことが伝わります。各地の泉が消滅していく中、いつまでも残ってもらいたいものです。



▲喜友名泉 カーグワー（イナグガー）

▲喜友名泉 ウフガー（イキガガー）

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎893-4430